



珍 コ ン ブ ニ 題

— そ の 1 —



ここに掲げた写真は一本の茎から二つの葉が出たスジメです。これは今年5月知床半島モイレウシの海岸で見つけたもので、全長43センチですが、茎が15センチもありその下部から約5センチの所で枝分かれています。そして枝分かれました方には茎部はなくて、すぐに葉部になっています。ご承知のように、スジメには葉部の一面に3本、他の面に2本、合計5本のスジが縦に走っていますが、このスジメは両方の葉部ともに5本のスジがあります。この葉体がどのような原因でできたのか不明ですが、以上の点から考えますと少なくとも一つの葉体が二つに分かれたものでなく、別々に生じたものではないでしょうか。今までに葉の部分が二つに分れたコンブは時々見つかっていますがこのようなものはあまり例がないと思います。(スジメはコンブ科の一種で道東沿岸には普通に見かける海藻です)

— そ の 2 —

この写真は7月に広尾で採取されたミツイシコンブの根元の部分を写したものです。実物は乾燥されていますが長さ4・3メートル幅5・5センチのごくあたりまえのコンブですが、写真で見ると根元から10センチほどの部分に白いプラスチックの輪のようなものがはまっています。このコンブは他のコンブと一緒に採られたものですが、発見した人は、おそらく試験のためにわざわざ標識としてつけたものと思つて普及所にとどけてくれたものなそうです。しかし決してそうではなくていつの間にか自然にはまつたものと見えます。このプラスチックは大きさ5・2×2・3センチ、厚さ3ミリほどのもので、ちょうど女性の使うベルトの付属品のように見えますが実際は何なのかまだ調べがつかえません。とに角その中にあいている3・2×1・1センチほどの穴の中にコンブが首をつっこんでいて、その部分はそのためにかなりくびれています。海の中に落ちたこの輪が強い波の動きで偶然に若いコンブにはまり込んで、そのままコンブの生長とともに居すわつたものようです。(この標本は広尾町駐在黒滝普及員からいただいたものです。)

